



CASE 04

FC琉球ホームゲームの運営メンバーとして選手とサポーターの間に立ち、試合を沸かす

誰もがスポーツを楽しめる社会を考える中で
バラスポーツに興味を持ち
その学びの場として沖縄大学へ進学。
先生との距離感の近さを支えに
以前からやりたかったことを相談し、
憧れのFC琉球の運営現場に入りノウハウを学びました。
これからは沖縄をスポーツでもっと楽しくしていきます。



Tsumagari
Hayato

福祉文化学科
健康スポーツ福祉専攻 3年次
松陽高校出身

津曲 鳩斗

DISCOVERY!
大好きなスポーツに
関わるだけで楽しい!



もともと子どもの頃からサッカーをやっていたこともあって、プロサッカーの試合観戦に行くのがとても好きでした。大学進学を考えた時に、スポーツが好きなことと、バラスポーツにも興味があったこともあり、調べていたところ、沖縄大学で学べることが分かり、受験しました。沖縄大学は、規模的にはさほど大きいわけではありませんが、それが逆に魅力で、3年間学んできているのは、教員と学生の距離が近く、学生はさまざまな場面で経験を積んだり、成長できる機会があるということです。

大学入学後にゼミの活動をする中で、プロスポーツの現場で自分もスポーツチームの運営やイベント開催のサポートをしたいと思っていると先生に相談したところ、FC琉球の方に紹介してもらうことができ、ホームゲームの試合運営や試合の運営に使う資料の作成補助をさせてもらえるようになりました。

沖縄は良くも悪くも選手とサポーターの距離がとても近く、サッカーを観に行くよりも、一緒に戦っている空気感をいつも感じています。試合後は、いつも選

手とサポーターはハイタッチ会などで交流しますが、サポーターが試合結果に関わらず、選手へ否定的な声掛けがないので良いと思いますし、勝利した試合後の選手とサポーターの笑顔がとても印象的です。

FC琉球のサポートをするようになって、一つの試合運営に長い時間とたくさん的人が関わっていることを目の当たりにし、選手もサポーターも一人一人の頑張りが多くの人を魅了する試合を作っているのだと改めて感じました。また、それはとても幸せなことだと感じています。この経験を活かして、今後は自分の専門種目や学んでいる競技を普及させるためのイベントを実施したいと思っています。また、これからもスポーツに何らかの形で関わりたいですし、叶うのであればスポーツ関連の仕事に就きたいです。

私は鹿児島県出身で、沖縄が地元ではないですが、FC琉球の運営に関わったことで、沖縄への愛着や、プロスポーツの面で沖縄をもっと良くしていきたいと思うようになりました。



(左)FC琉球の試合について事務所でプレゼンをしている様子。憧れとして見ていたチームの試合に関わることができたのは貴重な経験。試合観戦を安全に滞りなく進めるための注意事項などを説明。(右)バラスポーツの勉強の一環で運営した「新入生ボッチャ選手権」。ルール説明からプレーまで運営。

FIELD WORK

いろんな場面で成長する機会を

与えてもらっています